

〈幼稚園部会〉

I 研究主題

「個に応じた指導に生かす評価」

—評価項目の活用—

II 研究の概要

幼児期にふさわしい教育を実現していくためには、幼児の発達する姿を的確にとらえ、一人一人のよさや可能性を見だし、指導内容や方法を工夫・改善し、個に応じた指導に生かしていくことが大切である。そのためには、幼児の姿を的確にとらえる評価の視点や方法を明確にする必要がある。

そこで評価の方法として、昨年度は幼稚園教育要領の各領域に示された「内容」（ねらいを達成するために指導する事項）から評価項目を作成し、幼児の発達を5つの領域から分析的に評価する方法を考えた。今年度は、評価項目を生かした評価の時期や具体的な活用の仕方、日案の評価項目、指導案の作成例についても考え、さらに個に応じた指導に生かしていく評価の方法を研究開発した。

III 研究の内容

1 幼稚園における評価の考え方

幼稚園教育は意図的、計画的に行われるものであり、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら展開されるものである。

幼稚園における評価は、幼児のための評価であると同時に幼稚園や教師が進める指導の評価でもあり、評価することにより、自分の保育を振り返り、自分の指導とその幼児の発達との関係に気づき指導を改善していくことが大切である。

評価の方法としては、日頃から幼稚園では、日や週・期のねらい・内容を視点に評価する中で、幼児の育ちをとらえている。（形成的評価）（P.2表下参照）

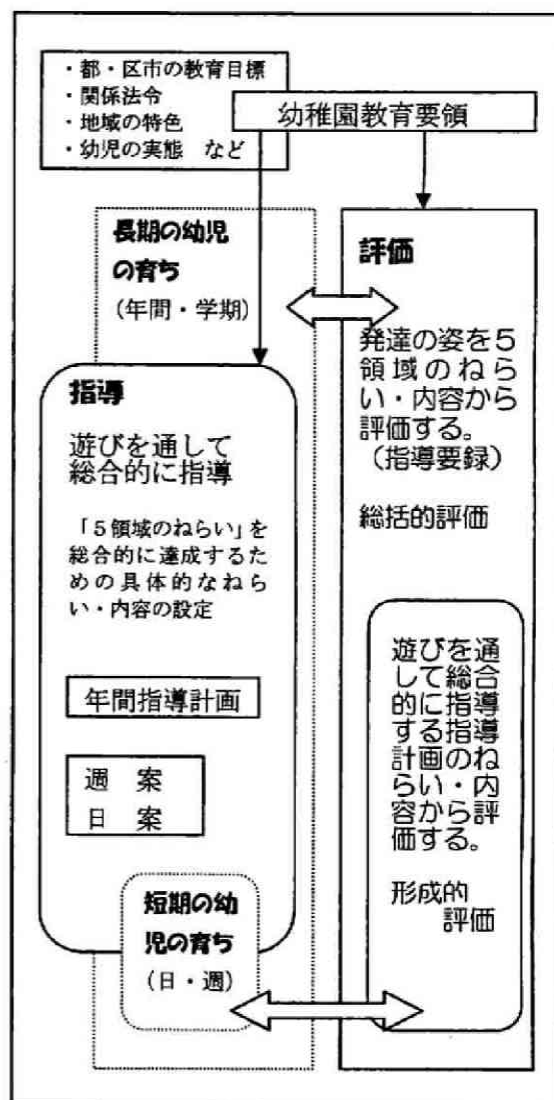
それとともに、幼稚園の教育課程の基準である幼稚園教育要領の5領域のねらいを視点として（指導要録の指導の記録「発達をとらえる視点」）幼児の発達もとらえている。（総括的評価）

幼稚園における日や週・期のねらい・内容は、教育要領の5領域に示されているねらいが総合的に達成されるよう、具体的なねらい・内容として再度設定されたものである。このため、総合的に指導していく上での形成的評価とともに、修了までに育つことが期待される心情・意欲・態度の育ちについて確認する必要がある。そのため、5領域のねらいから総括的な評価も行う。

このことから、幼稚園では、指導のねらい・内容から評価するとともに、5領域のねらいからも評価し、この両面から幼児の発達する姿をとらえることを、これまでも行ってきたと言える。

2 今年度の研究について

幼稚園教育要領解説では『発達の各時期にふさわしい具体的なねらいや内容は、各領域に示された「ねらい」や「内容」のすべてを視野に入れるとともに、幼児の生活の中で、それらがどう相互に関連しているかを十分に考慮して設定していくようにすることが大切である』とある。



今年度は、5領域の評価項目を活用した評価に加え、日案の評価項目を使った評価の方法についても考え、さらに幼児の姿を的確にとらえ、個々の指導に生かすための方法を考えていくことにした。

なお、今年度は、幼児の製作活動を中心に実際に評価を考えた指導案の例を作成して保育実践を行い研究を進めた。また本研究は、幼稚園の教育内容が分かりやすく他校種に理解されるよう、小学校・中学校で実施されている、いわゆる目標に準拠した評価（絶対評価）との関連も考慮して行った。

研究の視点

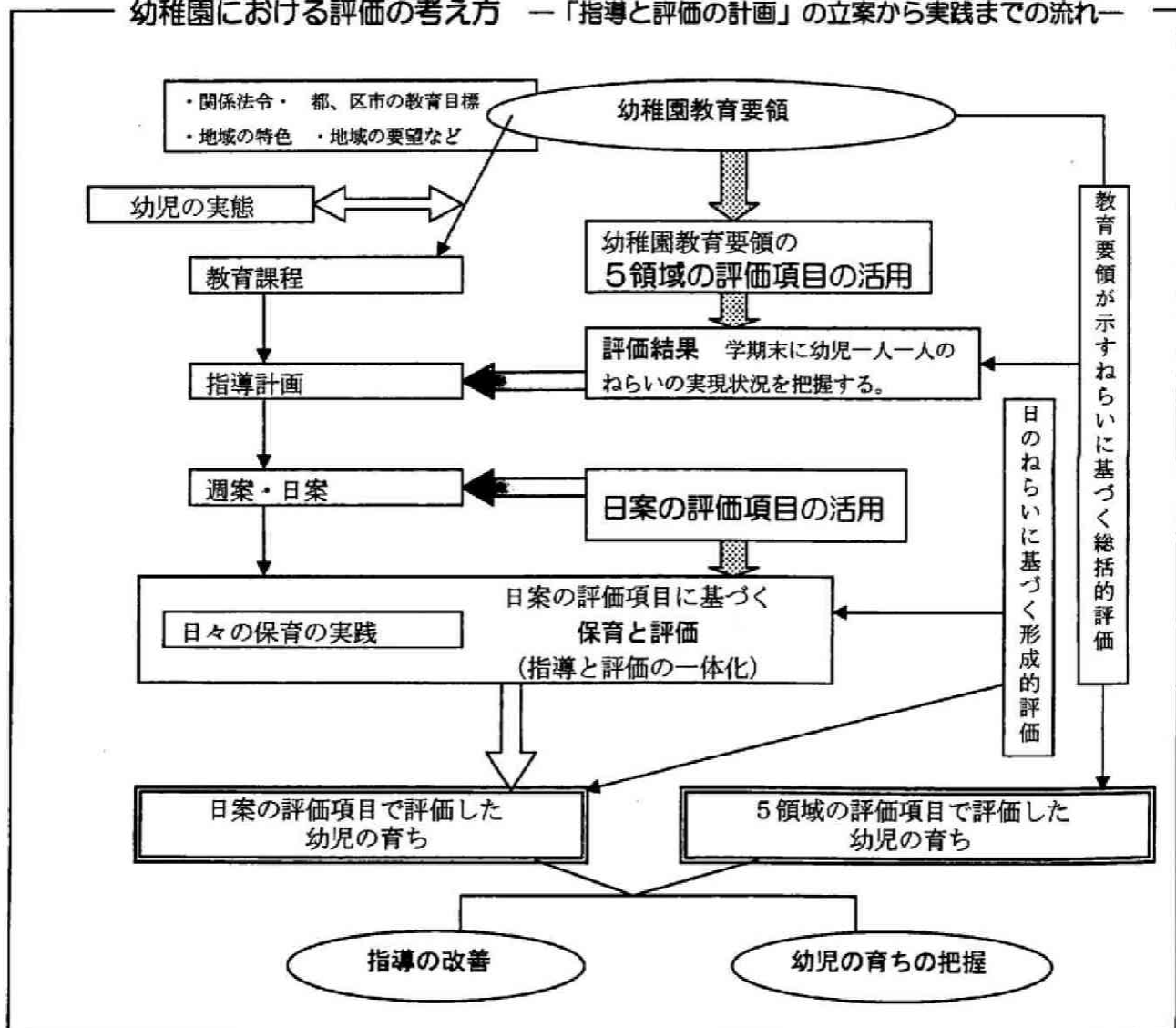
① 5領域の「内容」を視点とした評価の活用〔5領域の評価項目〕

幼稚園教育要領に示されているように、幼稚園のねらいは、幼稚園修了までに、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で、次第に達成に向かうものである。幼児の育ちを長期で考えるとき、指導要録作成の資料として学期ごとなどで見える場合、指導の仕方を改善したい場合などに、評価項目を使って評価すると、幼児の育っていないところや教師の指導の足りない点が明確になり効果的である。(P.3上段参照) (評価項目活用事例)

② 日の「内容」を視点とした評価項目の作成と活用〔日案の評価項目〕

日々の保育に対する評価は、ねらいを達成するために指導する事項である日の「内容」から〔日案の評価項目〕を作成して検討する方法を考えた。「内容」を分析することにより、育つ幼児の姿が明確になり、一人一人の援助の方向がはっきりとしてくる。日案の評価項目は、予想される幼児の姿から導き出されるものでもある。(P.3下段参照)

幼稚園における評価の考え方 — 「指導と評価の計画」の立案から実践までの流れ—



※ 形成的評価：指導の過程で幼児に獲得されつつあるものにとらえ、指導の方向を修正・確認するために行われる評価と考えています。

5領域の評価項目の作成

～5領域の「内容（指導する事項）」の分析～

教育要領5領域の「内容」を分析して、幼児の発達を見る視点「評価項目」を作成する。

例) 領域「表現」の「内容」(7) かいいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。に照らし、入園当初の姿・4歳児2学期・修了前のように各時期の幼児の具体的な姿を挙げる。

具体的な各時期の幼児の姿を、項目として挙げられるよう短く整理する。(キーワードのように)

領域「表現」の「内容」(7) の評価項目の例

	評価項目	具体的な幼児の姿
入園	・遊びに必要なものを自分なりにつくろうとする。 ∴	・遊びに必要な剣を、紙を丸めたり、ラップの芯をつなげたりしてつくろうとする。
	・友達と遊びに必要なものや場を作って遊びを進める。 ∴	・友達と一緒につくったりかいいたりしたもので遊び、必要なものをつくり遊びに取り入れようとする。
	・友達と共通の目的をもって、遊びの場や必要なものをつくったりかいいたりする。 ∴	・友達と一緒に遊ぶ中で、自分のイメージをつくったりかいいたりしながら表し、つくったりかいいたりする中で、豊かなイメージをもつ。
修了		



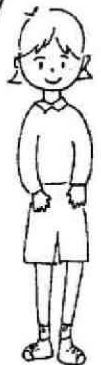
① 入園当初の姿
4歳児2学期
∴
修了前
∴
のように
時期毎に幼児の姿を
思い浮かべて…

② 具体的な幼児の姿を、「内容」に照らし合わせて出していくのね。

③ 具体的な幼児の姿を、短くし、キーワード的に言い換えて、評価項目とするのね。

評価項目作成の時は、時期を想定して幼児の具体的な姿を出したけれど…

…実際に評価する時は、入園から修了までの評価項目から、その幼児の姿に近い項目を探し、幼児がどこまで育ち、今後どのような指導が必要かを考えるのね。



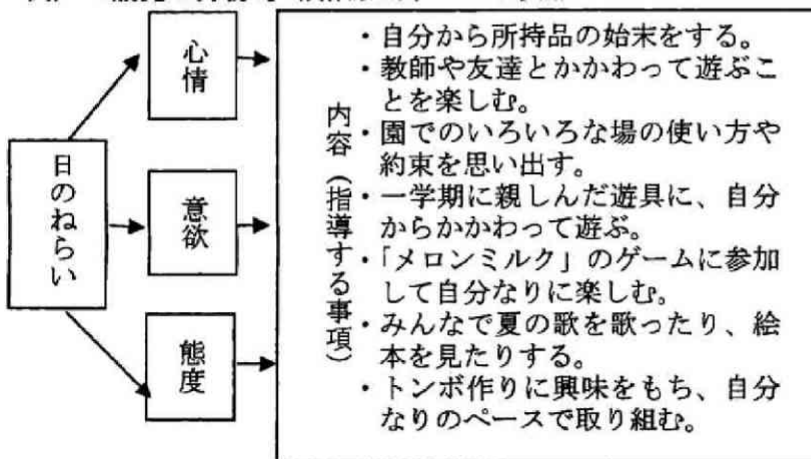
※ 幼稚園の評価では、時期別・学年別の到達規準を示すことは望ましくないと考えています。

日案の評価項目の作成

～日案の「内容（指導する事項）」の分析～

本日や本時に、幼児に育てたいものを明確にするために、日案の「内容(指導する事項)」を分析し、幼児に身に付けたいものや、幼児の育ちを把握するための項目を作成する。

例) 4歳児9月初旬(具体的には、P6～8参照)



指導内容を分析することによって、「内容」に関する様々な幼児の姿がみえる。

日案の評価項目の例

- トンボ作りに興味をもち参加したか。
- 紙を丸めることができたか。
- セロハンテープを切って付けることができたか。

IV 指導事例

1 学期末の評価について — [5領域の評価項目] を活用する


— 5歳児一学期末のA児の姿を把握し、二学期の指導について考えるために—

5領域の評価項目については、学期・期といった節目で活用すると効果的である。また、一人の幼児のことにについて全体的に評価していきたいとき、指導の仕方について改善策を見いだしたいときなどに活用すると次の指導の手立てがつかめる。以下に5領域の評価項目で評価したA児の事例を紹介する。

A児の姿

(言葉) 休み中の体験を友達や先生にうれしそうに話す。行事などの話を興味をもって聞く。

(健康) 所持品の管理や片付けには少し時間がかかる。紙芝居や絵本で手洗いの励行についての話を聞くと、弁当前の手洗い時に「指と指の間をよく洗うんだよねー」と言っすぐに実行する。



(人間関係) グループの中心となつて、遊びを進めていくことが多い。自分の思いが強くて、違う思いの友達とぶつかるときもある。

(環境) 飼育当番で「雨の日だからって私たちがあげないと、おなががすいてかわいそう」といたわりの気持ちをもっている。

(表現) ・絵を描いたり、製作をすることが大好きで様々な材料を使って遊びに必要な物を工夫しながらイメージ豊かに作って遊んでいる。
 ・トウモロコシの観察画に絵の具を塗っている。A児「クリーム色ってきれい！わー楽しいね、ゴシゴシぬってみよう」と友達と仲良く楽しい会話をしながらやっている。
 ・空き箱や様々な材料を使って作ることが大好きで、自分が作った物を発表会ごっこなどに生かして遊んでいる。紙を丸めた棒に色とりどりの紙テープをつけてステッキを作る。数人の友達と一緒に色違いのものを作り、ステージや客席を自分たちで設定して、ごっこ遊びを楽しんでいる。

5領域の評価項目に照らして (紙面の都合から次回への手がかりに必要なところを抜粋した)

「健康」の領域の評価項目から

(●・おおむね達成されたと考えられる ▲・今後、指導が必要と考えられる)

内 容	評 価 項 目	A 児 の 姿
(5) 健康な生活のリズムを身に付ける。	・皆で生活しているということを意識し、流れに沿って行動する。	▲身の回りの整理や遊んだ後の片付けが進んでいない。

「人間関係」の領域の評価項目から

内 容	評 価 項 目	A 児 の 姿
(5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。	・友達と一緒に生活する中で、相手に思いが伝わる。 ・友達に思いがうまく伝わったことで、遊びがより楽しくなる。	●遊びを進める時、「私は～をやりたいけど、OOちゃんは～がしたい？」と相手に聞いている。 ▲相手の気持ちを聞こうとはするが、まだ素直に受け入れられず自分の思いを通してしまい、トラブルになってしまう。

「環境」の領域の評価項目から

内 容	評 価 項 目	A 児 の 姿
(5) 身近な動物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。	・身近な動物に親しみをもって接し、進んで世話をする。 ・生き物の気持ちになって考えられるようになる。	●自分から進んで飼育物にかかわっている。 ●生き物は顔がないとかわいそうなど自分のことに置き換えて考えられる。

「言葉」の領域の評価項目から

内 容	評 価 項 目	A 児 の 姿
(1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。	・先生や友達に親しみをもって自分の思いを話す。 ・先生や友達に話を聞いてもらった嬉しさを感じる。	●誰に対しても親しみをもって話をする。

「表現」の領域の評価項目から

内 容	評 価 項 目	A 児 の 姿
(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。	・様々な素材に親しむ中で、それぞれの用途に気付く。 ・自分のイメージや思いを身近な物を使ってかいたり、つくったりして遊びに取り入れる。 ・友達と遊びに必要な物や備を作って遊びを進める。	●クレヨン・絵の具・油性ペンなどの特徴に気付き、用途に合わせて扱いをしている。 ●最近では細かい部分を描きたくて、鉛筆や色鉛筆を使っている。 ●材料を自分のイメージに合わせて製作し、それを遊びに積極的に取り入れ、喜んで遊んでいる。

評価項目を活用して評価し、A児の育ちについて読み取れたこと

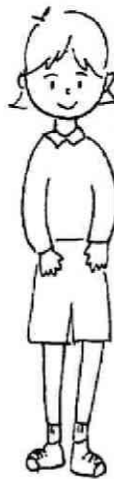
- ・身の回りのことや後片づけは、進んでやることができず友達に言われてやっていることが多い。
《健康－「内容」(5)(7)》
- ・遊びをリードしていく中で、自分の気持ちを伝えることはできるようになった。相手の思いを受け入れようとする気持ちはあるが、まだ、自分の思いを通したいという気持ちが強い。
《人間関係－「内容」(5)》
- ・身近な動植物に親しみをもって接している。生き物への温かな感情が芽生えている。自然への不思議さや美しさに興味をもち感動した気持ちを伝えることにより、満足している。相手の話をよく聞こうとしている。《環境－「内容」(5)・言葉－「内容」(1)》
- ・様々な材料を使って、イメージ豊かに製作する。それを遊びに取り入れて楽しんでいる。
- ・様々な素材に触れる中で、その扱い方や特性などを理解して使いこなしている。

《表現－「内容」(5)(7)》

次の指導に向けた分析・考察

自分の身の回りのできごとに、いつも関心をもち、疑問や感じたことを様々な形で表現する。イメージ豊かに表現するので、A児のよいところを他の幼児たちにも伝えていきたい。

友達の動きをよく見ていて共感したことを積極的に自分の中に取り入れようとしているので、教師は友達とのかかわりがより広がっていくようにしていこう。



A児は、教師に対して何でも言えるような信頼関係が育っているのでその関係を大切にしながら、相手の思いにもう少し気付くことができるようになってほしい。

製作活動に対して興味をもって遊ぶことが多いので、A児の要求に対応できるように材料などを準備し、イメージがすぐに実現できるような環境を整えておこう。

よさや可能性を伸ばすための援助について

－ A児の得意とする製作活動から指導内容を考える－

- ・ A児が手ごたえを感じることができる製作を提示し、興味をもって挑戦できるように援助するとともに、技能面も高め、満足感や達成感が味わえるようにしていく。
- ・ 材料や用具を用途に応じて自分で選べるようにしておく。
- ・ 製作活動を通して、友達の刺激を受け、より工夫することができるように、友達の作品に気付かせたり、教材の準備をしたりしておく。

具体的な指導の計画…製作的な活動の場面から

活動例

(個人) 絵画的活動 ・動きのある表現ができるようになるために

- ・細かい部分を観察しながら描くことができるようになるために
- ・自分なりのイメージに見通しをもって絵に表現するために

製作的活動

- 版画…紙版画・ステレン版画 自然物を使って…木の実の楽器作り、ドングリこま、プーツ・リース作り 指人形・操り人形・紙粘土・編み物・木工・はりぼて人形
- ・友達と一緒に共通の課題を進めていくために(運動会に向けての製作…学級の壁面作り、立体的昆虫) (作品展の共同製作…パノラマ作り・お店ごっこ) など

2 本日の評価 ～一日の保育を振り返り、翌日の指導を考えるために～

(1) 日のねらい・内容から評価する手順〔日案の評価項目〕

短期の評価を行うためには、指導内容を細かい事項から的確にとらえておくことが必要である。そこで、私たちは以下のように指導事項を分析した。これを〔日案の評価項目〕と表記する。

○本日のねらい①②③を立てる (下記 指導案の例「本日のねらい」・「内容」参照)

○ねらいを達成するための「内容」を出す…どのねらいにかかわるか (①②③) で示す。

(p 7 「トンボ作りの展開」参照)

○主な活動(トンボ作り)の指導内容と予想される幼児の姿を細かく出す。

〈幼児の姿A〉 **トンボ作りに興味をもつ** という指導内容に対して、自分から興味をもって参加する幼児や友だちが作ったトンボを見て参加する幼児もいるが、今日は参加しない幼児もいるだろう。

〈幼児の姿B〉 **自分でトンボを作る** という指導内容に対して、紙を筒状に丸められる幼児もいるだろうが、円錐状になったり、丸められなかったりして援助を求めてくる幼児もいるだろう。

○内容を、心情・意欲・態度(知識・技能)の観点から分析し、〔日案の評価項目〕を作成する。

〈評価項目A〉 心情・意欲の観点から

トンボ作りに興味をもち参加したか という〔日案の評価項目〕を出す。

自分から参加する・教師や友だちの刺激を受けて参加する・今日は参加しないなどの具体的な幼児の姿を把握する。

〈評価項目B〉 態度の観点から

紙を丸めることができたか という〔日案の評価項目〕を出す。

筒状に丸める・円錐状に丸める・丸められないなどの具体的な幼児の姿を把握する。

○翌日の保育に向けて、一人一人に対する次の手だてを考える。

- ・興味をもたなかった幼児への声かけや環境の工夫について
- ・意欲はあるが、紙を丸めたりセロハンテープを切ったりすることができなかった幼児への援助について
- ・トンボを使って友達と遊べる環境の工夫

【指導案の例】

2・3年保育4歳児 かわの組 指導案

平成15年9月8日(月)

担任名 ○ ○ ○ ○

男児17名、女児14名、計31名

【先週の幼児の姿】

- ・ほとんどの幼児が二学期の始まることを喜び、安心して…

【本日のねらい】

- ① 園での生活のリズムを取り戻しながら、安心して過ごす。
- ② 自分の好きな遊びを見つけ、自分の思いを出しながら遊ぶ。
- ③ 学級のみんなで過ごすことを楽しむ。

【内容】

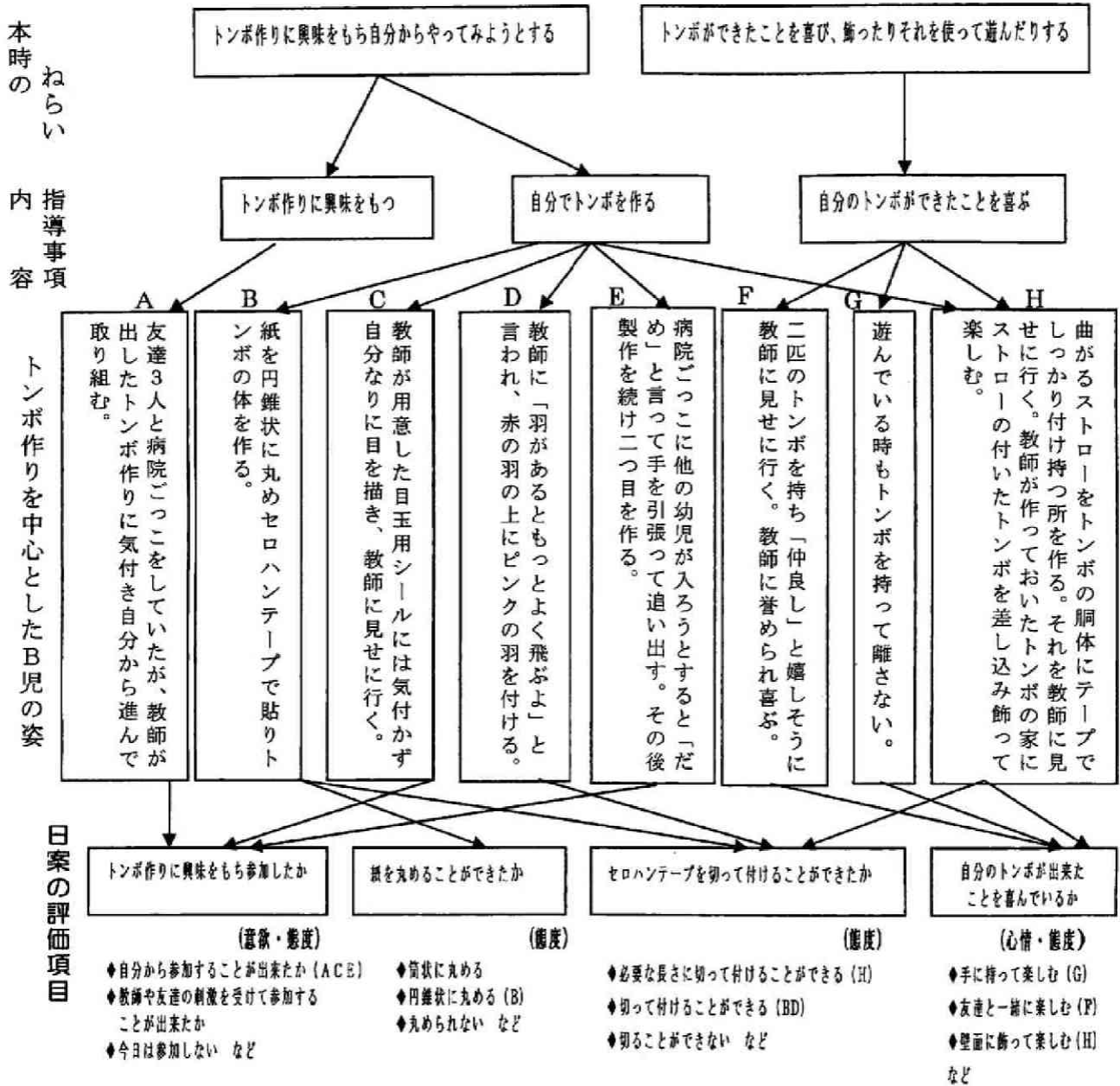
- ・(週明けなので)スムーズに所持品の始末をする。①
- ・教師や友達とかかわって遊ぶことを楽しむ。①②③
- ・園でのいろいろな場の使い方や約束を思い出す。①②
- ・一学期に親しんだ遊具に、自分からかかわって遊ぶ。②
- ・「メロンミルク」のゲームに参加して自分なりに楽しむ。①③
- ・みんなで夏の歌を歌ったり絵本見たりする。①③
- ・トンボ作りに興味をもち、自分なりのペースで取り組む。①②

<p>時刻</p> <p>8:50</p> <p>10:30</p> <p>10:50</p> <p>11:30</p> <p>12:50</p> <p>13:40</p>	<p>活動の流れ</p> <p>○登園</p> <ul style="list-style-type: none"> 所持品の始末 <p>○好きな遊びをする。</p> <p>(戸外)</p> <p>砂場・シャボン玉</p> <p>固定遊具</p> <p>ごっこ遊び など</p> <p>(室内)</p> <p>積木、</p> <p>ごっこ遊び</p> <p>おうちごっこ</p> <p>ヒーローごっこ</p> <p>音楽をかける</p> <p>踊る、楽器遊び</p> <p>絵を描く</p> <p>空箱製作</p> <p>◎トンボを作る。</p> <p>など</p> <p>○片付ける。</p> <p>○メロンミルクをする。</p> <p>○弁当を食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 用便、手洗い、うがい 食事 後片づけ <p>○好きな遊びをする。</p> <p>○片付ける。</p> <p>○集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手遊び、歌、絵本 降園の支度 <p>○降園</p>	<p>積木で乗り物や基地を作る</p> <p>○中型積木で、基地や乗り物などのいろいろな形を作ることを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基地や乗り物などの場を自分なりに作る。 友達と一緒に過ごすことを楽しむ。 <p>*出来た物や場を認め、友達と楽しく過ごしていることに共感していく。</p> <p>*安全面に配慮し落ち着いて過ごせるようなスペースになるよう場を整理していく。</p> <p>トンボを作る</p> <p>別紙</p> <p>机</p> <p>製作コ</p> <p>絵本コ</p> <p>環境図</p> <p>砂場</p> <p>砂場</p> <p>砂場で遊ぶ</p> <p>○のびのびとした開放感を味わって遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 園服の裾をしまうなどの身支度、水は青いコンテナからくむなど、砂場で遊ぶときの約束事を思い出して行う。 穴を掘る、溝を掘る、水を流す、橋や乗り物の遊具を走らせるなど自分なりにのびのびと楽しむ。 <p>*のびのびと楽しむ姿やつくった場を認めていく。</p> <p>*砂場で遊ぶときの約束事を思い出せるように声をかける。</p>	<p>音楽に合わせて踊る</p> <p>【トンボ作りの展開】P. 6参照</p> <p>ねらい ○トンボ作りに興味をもち、自分からやってみようとする。</p> <p>○トンボができたことを喜び、飾ったりそれを使って遊んだりする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1120 399 1310 431">内容(指導事項)</th> <th data-bbox="1310 399 1691 431">教師の援助・留意点</th> <th data-bbox="1691 399 2049 431">日案の評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1120 431 1310 729"> <p>・トンボ作りに興味をもつ。</p> <p>予想される幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から参加する。 教師や友達の刺激を受けて参加する。 今日は参加しない。 </td> <td data-bbox="1310 431 1691 729"> <ul style="list-style-type: none"> 前週に、トンボの出る絵本を読んだり、教師の作ったトンボを見せたりして、興味をもてるようにしていく。 取り組みの姿がよく見えるように、 <p>予想される幼児の姿から評価項目を考える</p> </td> <td data-bbox="1691 431 2049 729"> <p>トンボ作りに興味をもち参加したか【意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から参加することができる。 教師や友達の刺激を受けて参加することができる。 今日は参加しない。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1120 729 1310 1027"> <ul style="list-style-type: none"> 自分でトンボを作る。 </td> <td data-bbox="1310 729 1691 1027"> <ul style="list-style-type: none"> 自分から取り組んでいる幼児には、意欲や取り組んでいる姿を認めていく。 見ているだけの幼児には、見ていることでの参加を認めていく。 自分の力で作っている姿や作品を認めたり、励ましたりしていく。 「わからない」「できない」と言う幼児には、個々に教えたり「大丈夫、あなたにも出来るよ」と励ましたりする。 工夫している点を認めたり、他の幼児に見せたりしていく。 いろいろな作品があることを認めたり、共感したりしていく。 その子なりに喜びを表している姿をとらえ、教師も共感していく。 出来た作品を持って飛ばすような形で遊ぶ姿を認めていく。 繰り返し遊ぶことが出来るような飾り方を工夫する。 保育室内の壁面は、幼児の届かない高さなので、自分で飾りたい幼児のために廊下の壁面にも場所を作る。 </td> <td data-bbox="1691 729 2049 1027"> <p>紙を丸めることができたか【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筒状に丸めることができる。 円錐状に丸めることができる。 丸められない。 <p>セロハンテープを切って付けることができたか【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な長さに切って付けることができる。 切って付けることができる。 切ることが出来ない。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1120 1027 1310 1340"> <ul style="list-style-type: none"> 自分のトンボが出来たことを喜ぶ。 </td> <td data-bbox="1310 1027 1691 1340"> <p>○いぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> せ 吹 草 <p>*水の経路</p> </td> <td data-bbox="1691 1027 2049 1340"> <p>自分のトンボが出来たことを喜んでいるか【心情・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手に持って楽しむ。 友達と一緒に楽しむ。 壁面に飾って楽しむ。 </td> </tr> </tbody> </table>	内容(指導事項)	教師の援助・留意点	日案の評価項目	<p>・トンボ作りに興味をもつ。</p> <p>予想される幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から参加する。 教師や友達の刺激を受けて参加する。 今日は参加しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 前週に、トンボの出る絵本を読んだり、教師の作ったトンボを見せたりして、興味をもてるようにしていく。 取り組みの姿がよく見えるように、 <p>予想される幼児の姿から評価項目を考える</p>	<p>トンボ作りに興味をもち参加したか【意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から参加することができる。 教師や友達の刺激を受けて参加することができる。 今日は参加しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でトンボを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から取り組んでいる幼児には、意欲や取り組んでいる姿を認めていく。 見ているだけの幼児には、見ていることでの参加を認めていく。 自分の力で作っている姿や作品を認めたり、励ましたりしていく。 「わからない」「できない」と言う幼児には、個々に教えたり「大丈夫、あなたにも出来るよ」と励ましたりする。 工夫している点を認めたり、他の幼児に見せたりしていく。 いろいろな作品があることを認めたり、共感したりしていく。 その子なりに喜びを表している姿をとらえ、教師も共感していく。 出来た作品を持って飛ばすような形で遊ぶ姿を認めていく。 繰り返し遊ぶことが出来るような飾り方を工夫する。 保育室内の壁面は、幼児の届かない高さなので、自分で飾りたい幼児のために廊下の壁面にも場所を作る。 	<p>紙を丸めることができたか【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筒状に丸めることができる。 円錐状に丸めることができる。 丸められない。 <p>セロハンテープを切って付けることができたか【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な長さに切って付けることができる。 切って付けることができる。 切ることが出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のトンボが出来たことを喜ぶ。 	<p>○いぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> せ 吹 草 <p>*水の経路</p>	<p>自分のトンボが出来たことを喜んでいるか【心情・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手に持って楽しむ。 友達と一緒に楽しむ。 壁面に飾って楽しむ。
内容(指導事項)	教師の援助・留意点	日案の評価項目													
<p>・トンボ作りに興味をもつ。</p> <p>予想される幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から参加する。 教師や友達の刺激を受けて参加する。 今日は参加しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 前週に、トンボの出る絵本を読んだり、教師の作ったトンボを見せたりして、興味をもてるようにしていく。 取り組みの姿がよく見えるように、 <p>予想される幼児の姿から評価項目を考える</p>	<p>トンボ作りに興味をもち参加したか【意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から参加することができる。 教師や友達の刺激を受けて参加することができる。 今日は参加しない。 													
<ul style="list-style-type: none"> 自分でトンボを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から取り組んでいる幼児には、意欲や取り組んでいる姿を認めていく。 見ているだけの幼児には、見ていることでの参加を認めていく。 自分の力で作っている姿や作品を認めたり、励ましたりしていく。 「わからない」「できない」と言う幼児には、個々に教えたり「大丈夫、あなたにも出来るよ」と励ましたりする。 工夫している点を認めたり、他の幼児に見せたりしていく。 いろいろな作品があることを認めたり、共感したりしていく。 その子なりに喜びを表している姿をとらえ、教師も共感していく。 出来た作品を持って飛ばすような形で遊ぶ姿を認めていく。 繰り返し遊ぶことが出来るような飾り方を工夫する。 保育室内の壁面は、幼児の届かない高さなので、自分で飾りたい幼児のために廊下の壁面にも場所を作る。 	<p>紙を丸めることができたか【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筒状に丸めることができる。 円錐状に丸めることができる。 丸められない。 <p>セロハンテープを切って付けることができたか【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な長さに切って付けることができる。 切って付けることができる。 切ることが出来ない。 													
<ul style="list-style-type: none"> 自分のトンボが出来たことを喜ぶ。 	<p>○いぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> せ 吹 草 <p>*水の経路</p>	<p>自分のトンボが出来たことを喜んでいるか【心情・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手に持って楽しむ。 友達と一緒に楽しむ。 壁面に飾って楽しむ。 													

(2) 本時「製作トンボ作りの場面」におけるB児の評価

3ページの図を参考に、日案の評価項目を活用しB児の姿をとらえ、分析・考案した。

ア. 日案の評価項目を活用した評価



<分析・考察からの次の指導へ>

- B児はトンボ作りに興味をもち、意欲的に取り組む姿が見られる。紙を丸める、セロハンテープの使い方など技術面も習得している。自分で考えてトンボの目玉を作る、二匹目を作る、ストローと組み合わせて作るなど、考えたり工夫したりしながら自分の力で作っている。またトンボを離さないで持つ、教師に嬉しそうに見せる、飾って楽しむなど自分の作ったトンボで喜んで遊び、大切に扱っている。これからも作って遊ぶ楽しさを味わえるような教材や場の提示をしていきたい。
- 以上の姿からB児の評価をしてみると心情、意欲、態度、技能ともに本時のねらいをおおむね達成できたと考えられる。

イ. 5領域の評価項目を活用した評価

日案の評価項目を活用した評価（p 8）ではB児は本時のねらいをおおむね達成できた。しかし担任はB児への援助について課題を感じていた。そこで、5領域の評価項目を活用しB児の育ちと今後の指導の手立てを探ることにした。



「人間関係」の領域の評価項目で見る

内容	評価項目	B児の姿
(2)自分で考え、自分で行動する。	・思ったこと、考えたことを自分なりにやってみる。	●教師が用意したシールを使わず、自分なりに目を描きトンボを作る。
(5)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。	・周囲の友達に親しみを感じ自分の思いを伝えながら、相手の気持ちを感じとる。	▲他の幼児が自分たちの遊びに入ろうとすると、はっきり断り、手を引っ張り追い出す。自分の思いが強く相手の気持ちに気付かない。

「言葉」の領域の評価項目で見る

内容	評価項目	B児の姿
(1)先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり話したりする。	・相手に親しみをもって話したり友達の話しに耳を傾けたりする。	▲教師や気の合う特定の友達には親しみをもち接することができるが、他の幼児に対しては自分を強く出し受け入れない。

「表現」の領域の評価項目で見る

内容	評価項目	B児の姿
(7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。	・自分なりの表現を楽しみ、かいたり作ったり、遊びに使ったりして、様々な楽しみ方をする。	●自分で考えて目を作ったり、羽を付けたり、2匹作ったりする。作ったトンボと一緒に行動したり、飾って楽しんだりする。
(5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。	・様々な素材を使うことを楽しむ。	●セロテープを上手に使ったり、ストローを組み合わせたりしてトンボを作る。

<分析・考察から次への指導へ>

- 「表現」の項目においては、様々な素材を使い、自分なりに楽しんだり、工夫したりするなど、B児のよさを見つけることができる。しかし「人間関係」「言葉」においては、友達の気持ちに気付かない、特定の友達以外は素直に受け入れられず、思いを強い口調で伝えているなどの姿が見られ、友達とのかかわりでの指導が今後必要であることが分かった。
- 技能やアイデアで遊びをリードしていくB児のよさを伸ばしながら、友達への伝え方にも気付いていけるよう援助していきたい。



V 研究のまとめ

私たちは、日々の保育の後、また週や学期、指導計画で示した各期の終わりに、それぞれのねらいに照らした評価を行っている。日や週、各期ごとに立てたねらいが学級のどの程度の幼児で達成されたかという評価をすることで、学級としての育ちや課題が見えてくる。

一方、これらの指導計画に示されるねらい（日／週／期などのねらい）を一人一人が達成したかどうかについて評価しようとしたときには、ねらいの中に含まれる活動に関する点では評価できても、その幼児の育ちを全体的に評価しきれない部分、見えてこない部分がある。

そこで、昨年度の研究成果を踏まえ、これまでも行ってきた『指導計画のねらいに照らして行う評価』と本研究で開発した『5領域の「内容」から導き出した評価項目を活用した評価』の二面で評価する方法について研究を深めてきた。その中で得た効果的な評価の時期や仕方、そこでの成果、今後の活用について以下にまとめる。

1 [5領域の評価項目]の活用の時期について

学級の全員について日や週の単位で、[5領域の評価項目]を活用した評価を行うことは限られた時間の中で行うには難しいが、気になる姿が幼児の中に見られ、次の手だてを見いだしたいときや、研究保育の協議会などで活用すると、その幼児に必要な指導内容が明確になる。また、各学期の終わりなどに、領域別の分析的視点・教育要領に基づく総括的な視点をもって一人一人の幼児の育ちをとらえることは、個に応じた指導を行う上で欠かすことができない。

2 評価の結果について

B児の事例を検討した結果、[日案の評価項目]と[5領域の評価項目]での評価の結果からは一人の幼児の異なった側面が見えてくることが分かった。

幼児の遊びを通した総合的な指導の計画から導きだされた[日案の評価項目]を活用すると、教師の選択したその日の活動や設定した環境から、幼児が何を学び身に付けることができたかについて把握することができる。

また[日案の評価項目]では、ほぼねらいが達成されていると思われる幼児についても[5領域の評価項目]を活用した評価を行うことによって、現在の課題だけではなく、その幼児のよさや可能性がクローズアップされてくる。そして、その優れた点をより伸ばすことのできる今後の指導の手だても得ることができた。

3 幼稚園の評価の特徴と留意点について

- 単に到達する姿だけを見るためではなく、よさや可能性を引き出すための評価であること
[5領域の評価項目]を活用した評価を行う際には、ひとつひとつの評価項目が、達成できているか、達成できていないかだけを見るのではなく、それぞれの領域で示された入園から修了までの発達の道筋のどこまで育ってきているか、その幼児なりの育ちを把握し、今後どのような指導が必要かを教師自身が見いだすことが大切である。
- 評価の結果明らかになった課題を把握し、総合的に指導すること
5領域の評価項目で領域別に評価した結果は、領域が総合的に指導されるよう指導計画の日／週／期などのねらいに生かしていく。

4 [5領域の評価項目]の今後の活用について

幼稚園設置基準が改正され、教育活動について点検評価項目を具体的に設定して、客観的に点検評価を行うことや、その結果を積極的に公表することが望まれている。そこでも、この評価項目は幼稚園教育要領に準拠したものであるので活用できると考える。

また、これまで幼稚園教育を、分かりやすく説明するのは難しいという声があることに対して、[5領域の評価項目]は小・中学校のゆわゆる目標に準拠した評価（絶対評価）との関連を考慮して作成してあるので、他校種や保護者に理解しやすい形で幼稚園教育の内容や成果を伝えていくことができると考える。

本研究で開発した[5領域の評価項目]の作成の仕方を参考に、各幼稚園独自の評価項目を作成することが、今後、幼児一人一人のよさや可能性を引き出す指導につながっていくと考える。